

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000705		
法人名	有限会社グループホーム花		
事業所名	グループホーム花		
所在地	小樽市最上2丁目19番9号		
自己評価作成日	平成26年7月5日	評価結果市町村受理日	平成26年8月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームには訪問者のための広いスペースを有する駐車場や畑があり、「畑」を通じて近隣住民の方などが気軽に立ち寄り話し掛け合ったり出来る環境作りに力を入れています。又、毎年行われている「お祭り」「フリーマーケット」「雪明り」の際にも入居者様・職員・近隣住民の間で顔見知りから顔馴染みの関係のように少しずつ良い関係を図れるよう努力しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0172000705-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成 26年 7月 25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

眺めの良い高台にあるホームです。環境はすばらしく敷地も広々としており、駐車場、畑、イベントなどの開催に利用しています。地域との交流が盛んで、保育園児、中学生、会議所青年部等の訪問があり、利用者の楽しみとなっています。利用者職員との会議で暮らしの中の決め事などを相談しながらケアを行っています。毎月勉強会を開き、担当職員が自主的にテーマを決め資料も作成して行っており、サービスの質向上に前向きに取り組んでいます。行事も毎月あり、利用者の楽しみ、気分転換、外出に結びついたり、その人らしい暮らしを支え、家族、利用者からは信頼と安心を寄せられているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや申し送り時など、全職員と理念にふれ合い共有し実践に向け日々取り組んでいる。	ホームはサービス理念の他に、「因は我にあり」(自分が変われば 相手が変わる、 相手が変われば 心が変わる 心が変われば 言葉が変わる)等を信条として皆で共有しながら、介護の実践に活かす努力をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩がてらホーム前にて畑の状態を見に行ったりしていると近隣の住民が利用者の方に話しかけてくれたり日常的に交流している。又、近隣の園児・学生が訪問され触れ合うこともある。	町内会に加入しています。商工会議所青年部の訪問、保育園児や中学生の年数回の訪問や中学校の学校祭を見学するなど外部の方々との交流が楽しみとなっています。ホーム主催のフリーマーケットには大勢の住民が参加がして地域イベントとして定着しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、フマーケットを開催し利用者の方が地域の中で参加できることにより地域の人々が認知症の人に対しての理解を深め生活が出来るよう支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況、利用者の方の日常生活への取り組みの報告を行い意見や提案を受けサービスの向上に活かしている。運営推進委員会は2ヵ月に1回行っている。	2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会長、地域住民、家族、利用者、職員が参加しています。報告事項や時々の議題を設定し、ホームのサービス向上に結びつけるようにしています。家族の参加が少ない状況ですが、参加を促す努力をしています。	会議のテーマの工夫とテーマに沿った専門家や幅広い知見者等を招き、違った視点からの提案や意見を引き出し、サービスの質向上につなげることを期待します。家族へ議事録を周知するなど、ホームへの理解と協力を得られるよう取り組むことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や確認などがあれば直接、市役所の担当者の所に出向いたり電話にて連絡をとり積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所の担当者とは必要に応じて相談したり、情報を得るなど協力体制を築いています。また地域包括支援センター職員が会議に出席してホームの内情を把握しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は当ホームでは行っていません。研修会に参加し全体会議などにて「禁止となる具体的な行為」を正しく理解して頂き職員との共有を図って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修にて身体拘束の弊害や具体的な禁止事例を学び、全職員で共有しています。言葉使いなどにも注意しながら取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議により虐待についての職員間の認識を共有し見過ごされることがないように虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人が付いている入居者様がいる為、色々と聞いたり学ぶ機会があり活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改定や契約内容の変更に伴い、変更同意書を2部発行しサイン及び捺印を頂き双方で保管している。又、急な変更時には電話にて連絡をとり説明、理解、納得を図り郵送にて契約を交わすなどしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアー入り口に「意見箱」を設けています。又、利用者・家族などが意見、要望等有れば気兼ねなく管理者、職員等に言って頂けるような環境作りを運営推進会議にて報告しています。	家族の来訪時などに、利用者の状況を説明しながらよく話し合うようにしています。利用者とは日々接する中でコミュニケーションを大事にして要望や気持ちを把握するようにし、運営に反映させる努力をしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は、職員に対して全体会議・ユニット会議時などで意見や提案を聞いている。又、話が、しにくいこと等は個々に時間を作り聞く機会を設けている。	ユニット会議、全体会議などで職員の意見や提案などを聞き、運営に反映するようにしています。職員が自主的にテーマを決め、資料も作成し毎月勉強会を行っており、サービス向上に熱心に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常の勤務状況を見る他に、年に2回ホーム独自の評価表を職員に配布し職員個々の努力・実績・勤務状況を把握し給料水準など条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修の機会があれば都度、参加を促している。又、外部で受けた研修内容を内部研修で他の職員に内容を教えていただくようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との交流にてネットワークづくりをして頂き、色々な意見などを聞き職員個々に日常の勤務に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報や面会を通じて状況・状態を把握して入居後、安心と伴に信頼して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話を伺い要望や不安な事など聞くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況や状態を把握してその時の対応で必要な支援を行えていると思う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行っていただき生活される様、支援していると思う。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を、電話・お手紙(月1回)で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	掛かりつけ医や行きつけの美容室をそのまま利用していただく事で支援を行こなえていると思う。又、何時でも面会に来られてもよい環境が作られていると思います。	通院、買い物、外食 美容室など利用者の馴染みの場所や人との関係継続の支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が交流をはかったり会話に参加できるよう配慮を行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人やご家族様から必要があれば助言を行うなど、利用終了後も安心して過ごせるよう相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で入居者様が何をしたいかなど思いや意向をくみ取りその把握に努めている。	生活歴や家族からの情報、日々接する中での会話や表情から、思いや意向を把握するようにしています。気づきなどはノートへ記録し、職員間の共有とし、介護計画作成時の参考としています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様から聞いたり、利用されている居宅・施設がある場合は資料を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況等を観察し可能な事、不可能な事を見極め有する力を発揮出来るよう勤めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族様からの要望や医療面・介護面の情報を取り入れその状況に即した介護計画を作成している。	利用者の希望や家族の意向、医療関係者の意見等考慮し、アセスメントシート、気づきノート等参考に介護計画を作成しています。日々の介護記録は、「生活アセスメントシート」へパソコンで記録し、いつでも職員は見られるように管理されています。記録は計画と連動させ、見直しは3カ月、または6カ月で行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で行動・会話の変化を記録し職員間で情報を共有し介護計画を見直し反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃のご本人ご家族の要望に基づいて職員全体で検討し柔軟な支援が出来るよう多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社旗と交流については近隣中学校・近隣保育園の生徒・園児が入居者様と直接触れ合いをして楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医にはご家族・職員が通院支援を行う。又、ホームと提携の医療機関から月1回の訪問診療・歯科の訪問診療で必要に応じた対応をしている。	かかりつけ医への受診は、家族またはホームで支援しています。ホームと提携している病院の月1回の往診と歯科の往診があり、適切な医療を受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護職員がいない為、入居者様に変化があった際、掛かりつけ医師、又は看護師に連絡をして指示を頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には、定期的に病院へ行き様子を伺うとともに看護師に状態・状況等を聞くなどしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアはおこなっていない為、重度化した場合について等を、ご本人やご家族様に十分な説明をして入居時に契約・同意書を交わしている。	ホームでは終末期対応は出来ないことを入居時に家族、利用者へ説明し、重度化と終末期の対応に納得したうえで契約を交わしています。状態悪化の場合は、提携病院やかかりつけ医と相談のうえ適切な医療を受けられるよう支援します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	赤十字の方に来て頂き、研修をして頂いたり外部にて研修を受けたり1年に1度は必ずやっております。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時、火災通報専用電話機にて消防へ救助連絡が行くように成っている。	年2回、消防署立ち合いで火災訓練を行っています。地域住民の参加もあり、マニュアルも作成しています。非常時連絡網の整備、避難場所の設定、緊急時持ち出し品の用意もしています。毎月、火元、非常口、コンセントなどのチェックも行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、一人一人が個室に成っており、何時でも戸の開閉・施錠が自由に出来る状態で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに注意をしている。	利用者の人格の尊重とプライバシー確保には、特に注意しながら全職員で対応しています。接遇についての研修もあり、特に言葉遣いに注意するように職員を指導しています。個人情報の記録などはしっかり管理されています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の体調や希望を確認した上でお手伝いなどをして頂いています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様、ご家族の意向に沿ったケアプランをもとに入居者様のペースを大切に支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用しカット・パーマ・毛剃りなどしてもらっています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所にて入居者様と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。又、好みをメニューに入れられるようにしています。	利用者の希望などを取り入れながら、職員がメニューを作成しています。利用者も出来ることは、職員と一緒にしています。ホームの畑で収穫した野菜を食材にしたり、外食では、お寿司や好みのものを食べたりと利用者が楽しめる工夫をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少なくならないよう注意している。食事の量は一人一人の状態に合わせて提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に訪問診療・口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	最小限の介助にとどめ本人が出来るだけ自力で行えるように支援している。	排泄パターンを把握し、衛生用品を使用しながら出来る限りトイレでの排泄に努めています。夜間はおむつの使用もあります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に運動の働き掛けや食物繊維・乳酸食品で予防したり薬にて対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調を考慮し午前・午後と入浴のタイミングを決めている。	週4回の入浴日を決めてあり、平均週2～3回入浴しています。そのほか希望があれば対応しています。本人の意向を大事にして無理強いしないよう声かけの工夫などで対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に合わせた声掛けで、安心して休められるようにしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用を理解して、薬袋の色別にて用法、用量を間違えることなく服薬出来るようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、交流が出来るように体操・発声練習など時間を決め皆様の参加を呼び掛けに行っている。又、天気の良い日等にはテラスにて気分転換をして頂いたりしている。入居者様が個々に点結び・パズル・計算ドリル等をして一人一人の力を活かした楽しみごとなどしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者からの希望を聞きいれて、行事計画を立て実施している。行事の時にはご家族様にも参加を呼びかけている。	お天気の良い日は、畑や敷地内の散歩などを行っています。行事で外出機会を設け（買い物ツアー さくらんぼ狩り 海水浴 カラオケなど）気分転換や楽しみある生活支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所で小遣いを預かり管理しているが、それ以外に自己管理できる方はお財布を所持して頂き支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があった時には都度、ご本人より電話をして頂いている。又、ご家族様が当ホームに用事で電話を頂いた時でも、最後に入居者様と変わるように心掛けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に掃除をし快適に過ごせるよう注意をしている。又、落ち着いた雰囲気音楽を流し季節の草花を飾っている。	リビングは広々と明るく、食卓テーブルとリラックステイクアップする場所があり、季節の飾りものを置いて家庭的な雰囲気になっています。利用者はそれぞれの場所で自由に過ごしています。掃除が行き届き、気持ちよく過ごせます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士が談笑しながら過ごせるよう席を近くに配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具を置き、居心地のよい暮らしが出来るように配慮しています。	各居室は掃除が行き届き、整理されて利用者が気持ちよく過ごせるよう支援しています。掃除、整理のチェック表があり、担当した職員名も記載しています。利用者の好みの飾りや、馴染みの家具や椅子など置き、過ごしやすい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	転倒防止の為、手すりやエレベーターを配置しており利用者の安全に配慮している。トイレには利用者が見て分かりやすいように大きく張り紙や目印をつけています。		